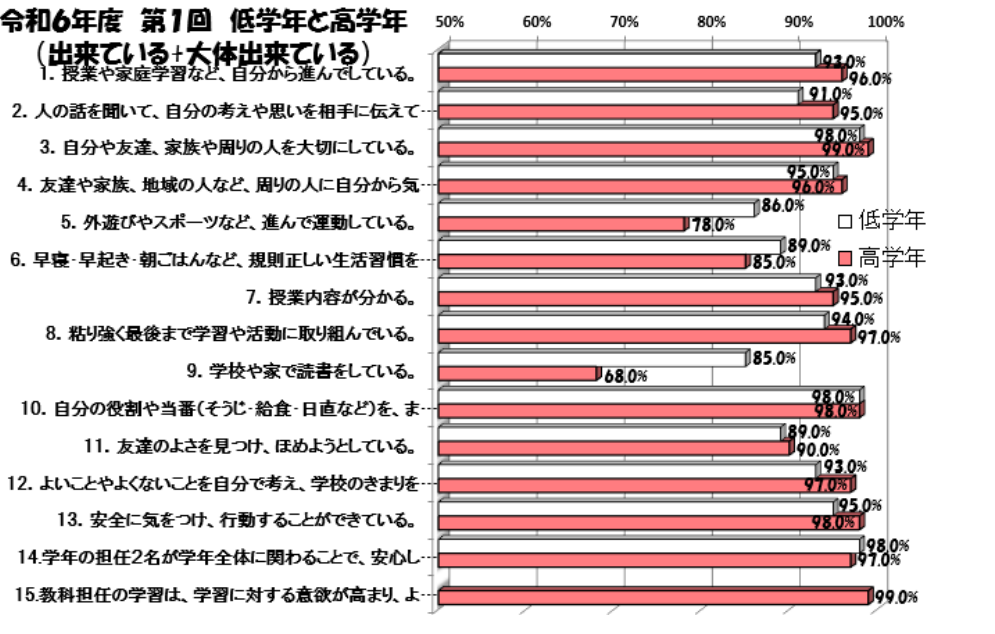
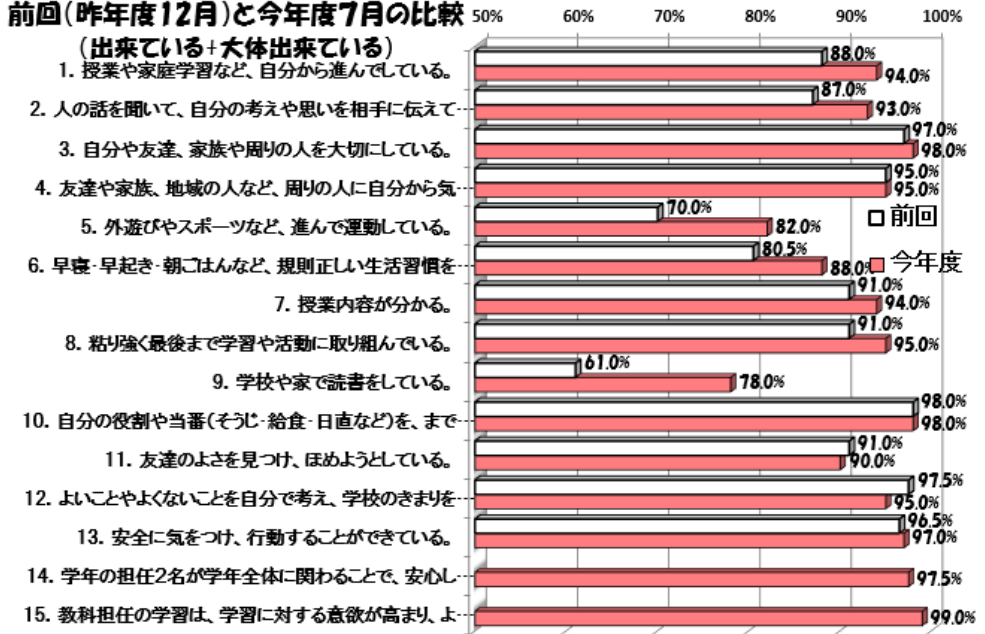
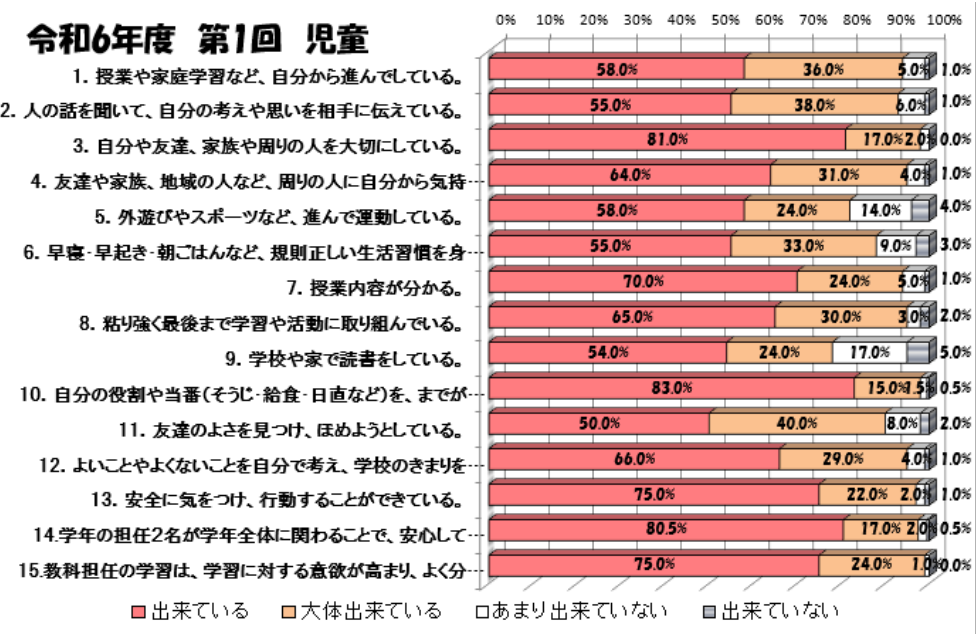


学校教育目標

自ら探究し、つながり合い、未来を拓く陵ヶ岡の子
～探究力・人間力・自给力(3Motto)を育む陵ヶ岡教育の創造～



☆児童全体のアンケート結果より

前回12月・今回7月に調査した児童全体の結果で「出来ている」「大体出来ている」の割合が共通して9割を超える項目は、以下の11項目です。

- ・「1. 学習に自分から進んで取り組んでいる」94.0%（前回比＋6.0%）
- ・「2. 話を聞いて、自分の考えを相手に伝えている」93.0%（前回比＋6.0%）
- ・「3. 自分や友達、家族や周りの人を大切に使う」98.0%（前回比＋1.0%）
- ・「4. 挨拶、謝罪、感謝の言葉が言える」95.0%（前回比±0%）
- ・「7. 授業内容がよく分かる」94.0%（前回比＋3.0%）
- ・「8. 粘り強く最後まで取り組む」95.0%（前回比＋4.0%）
- ・「10. 役割や当番を最後までがんばる」98.0%（前回比±0%）
- ・「11. 友達のよさを見つけ、ほめようとしている」90.0%（前回比－1.0%）
- ・「12. 善悪の判断、きまりを守る」95.0%（前回比－2.5%）
- ・「13. 安全に気をつけて行動する」97.0%（前回比＋0.5%）
- ・「14. 学年の担任2名が全体に関わることで安心するか」97.5%（初調査項目）
- ・「15. 教科担任の学習で、意欲が高まっている」99.0%（初調査項目）

15項目中12項目が9割を超えていることは本校児童の強みやよさであり、学校生活を主体的に過ごしている児童が多いと考えられます。

一方、8割を切ったのが、下記項目です。

- ・「9. 学校や家で読書をしている」78.0%（前回比＋17.0%）

前回より大幅に向上が見られました。今後も様々なものがデジタル化されるからこそ、一定の分量の文章を読み解く力は、これからの社会を生きる児童に欠かせない資質・能力です。児童を読書の世界へと誘う工夫が一層求められます。

また「2.話を聞き、考えや思いを伝える」は次のように推移しています。

R4年度① R4年度② R5年度① R5年度② R6年度①
91.3% ⇒ 86.2% ⇒ 87.5% ⇒ 87.0% ⇒ 93.0%

学習指導要領の求める「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る上でも「対話力」の向上は欠かせません。言語活動を通した指導を重ねる中で、相手の話を聞いて、どの児童も臆することなく自分の考えや思いを伝える姿勢を育むよう、今後も工夫が求められます。

☆低学年と高学年の比較

＊低学年と高学年共に数値が9割を超える項目

- ・「1. 学習に自分から進んで取り組んでいる」低：93.0% 高：96.0%
- ・「2. 話を聞いて、自分の考えを相手に伝えている」低：91.0% 高：95.0%
- ・「3. 自分や友達、家族等を大切に使う」低：98.0% 高：99.0%
- ・「4. 挨拶、謝罪、感謝の言葉を言う」低：95.0% 高：96.0%
- ・「7. 授業内容が、分かる」低：93.0% 高：95.0%
- ・「8. 粘り強く最後まで取り組む」低：94.0% 高：97.0%
- ・「10. 役割や当番を最後までがんばる」低：98.0% 高：98.0%
- ・「12. 善悪の判断、きまりを守る」低：93.0% 高：97.0%
- ・「13. 安全に気を付けて行動する」低：97.0% 高：96.0%
- ・「14. 学年の2名が全体に関わることで安心するか」低：98.0% 高：97.0%
- ・「15. 教科担任の学習で、意欲が高まっている」高：99.0%（3年生以上）

本校は「探究力・人間力・自给力」を育みたい資質・能力として設定しています。「1. 進んで自分から学習に取り組んでいる」から、探究力の高まりが見られます。「3. 自分や周りの人を大切にする」「4. 相手へ自分から声かけができる」はまさに「人間関係を形成する力」即ち「人間力」であり、これらがいずれも高いことは「誇るべき児童の姿」であると言えるでしょう。

また、「10.役割や当番を最後までがんばれる」「12. 善悪の判断・きまりを守る」「13. 安全に行動する」ことは、集団生活の中で自分を律し、自己管理ができることを示唆しています。こうした「自给力」に関わる項目についても、肯定的に自身を見つめる児童の姿を頼もしく感じます。

＊低学年と高学年いずれかの数値が9割を切る項目

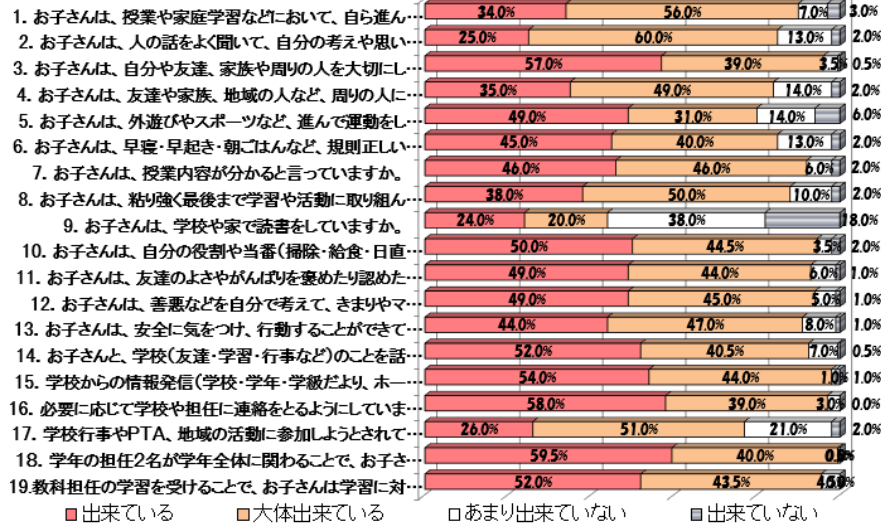
- ・「5. 外遊びやスポーツなど進んで運動」低：86.0% 高：78.0%
- ・「6. 早寝・早起き・朝ごはん」低：89.0% 高：85.0%
- ・「9. 学校や家で読書」低：85.0% 高：68.0%

高学年は、休み時間に委員会活動などの役割があったり、放課後習い事が忙しくなったりし、運動や規則正しい生活の遂行が難しくなりがちです。一方で、学齢期の児童が心身共に健やかに学校生活を送るためには、適度な運動に加え、「早寝・早起き・朝ごはん」は欠かせません。学校・家庭それぞれにできることを工夫し、その時間を保証できればと思いますので、今後ともご協力いただければ幸いです。

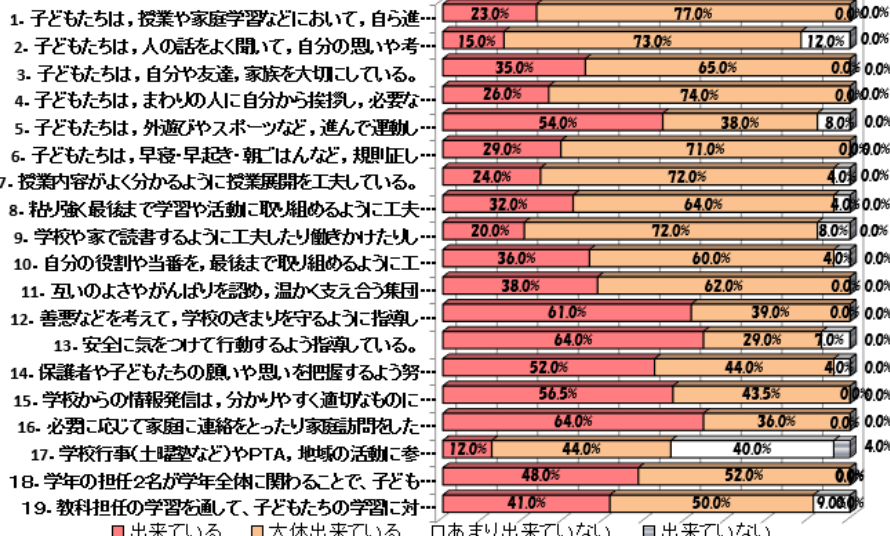
読書については、前回よりは数値が向上しています。今後も読みたくなるような雰囲気づくり、短時間でも本を手にする時間の確保、読後の楽しさを共有しあえる交流の場などの設定を工夫し、本好きな児童が増えてくれることに期待します。

よさや課題は個人や発達段階に応じて異なります。本校の傾向を把握した上で、お家でのお声かけ等の参考にいただければ幸いです。

令和6年度 第1回 保護者



令和6年度 第1回 教職員



☆保護者・教職員アンケート結果より

児童の回答と差が見られたのは、「2. 人の話を聞いて、自分の思いや考えを伝える」です。児童 93.0%に対して、保護者の皆様 85.0%、教職員 88.0%となっています。児童が「おおむねできている」と思っていることでも、大人から見ると、もっと人の話を聞き、自分の考えや思いを自分の言葉で伝えることができるようになってほしいという願いがあることが分かります。陵ヶ岡小学校では、引き続き、対話を重視した授業づくりを行い、児童の「聞く力・話す力」の向上を目指します。そして、対話を通してよりよい人間関係を形成することができる力、つまり本校で育成したい資質・能力の一つである『人間力』の育成を保護者の皆様と共に育てていきたいと思ひます。

保護者アンケートの「14.お子さんと学校のことを話す」が 92.5%と 9 割を超えていることもうれしいことです。また、「15. 学校からの情報発信は分かりやすいか」が 98.0%でした。今後とも HP やデジタル配信ツールを用いて発信する情報をご覧ください。

☆保護者アンケート記述欄より

- 紙面の都合上、保護者の皆様のご意見を抜粋・集約し、紹介します。
- いつも先生方が親身になって下さり、安心できております。子供も生き生きと学校生活を送っております。
- いつもありがとうございます。とにかく楽しく学校に通える環境を期待します。学習ももちろんですが、仲間作りに大切な時期かと思ひますので、心を開ける友達と出会えるよう、様々な人と学年の壁を越えて交流できるプログラムを期待します。
- テストの日や、テスト範囲がわかると計画して勉強できるので今後も時間割に記載を続けてほしい。学年便りで毎週保護者、担任でやりとりができるので安心しています。お忙しい中、コメントも毎回丁寧で嬉しいです。本人も先生からのコメントをいつも見えています。
- 大雨の朝にタオルを持たせましたが使用せず、子どもに聞くと、到着時に先生方が拭いてくださったとのことでした。ゆきやなぎの校長先生メッセージで詳細を知り、地域の皆様や高学年の行動にも感謝いたします。旗当番時には、子どもたちが必ず挨拶をしてくれます。普段からこのような環境作りをしてくださっている先生方、本当に有難うございます。
- 学校の雰囲気が良い。子ども達がみんな、素直で優しい印象。縦割り活動もとても良い。
- 先生方の熱い指導、深い愛情に感謝しています。

☆今後の方向性と取組

- 全体的に落ち着いて学ぶ様子が見られます。今後も「言語を通した人やものとの関わり合い」「対話のある協働活動」をベースにした授業づくりを大切にし、言語活動の充実を図る学習環境、安心して自己表出ができる学習集団を目指し、取り組みます。
- 15分程度の「朝学習」を今後も継続し、基礎基本の定着、落ち着いて読書や学習に取り組む姿勢や習慣の形成等をめざして取り組んでいきます。また、GIGA 端末も一層活用していきます。
- 「読書」については、読書タイムや図書室の時間の確保、学習活動で活用する機会を設ける等、日常の取組を継続していきます。学校司書や図書館教育に携わる保護者の方々・外部団体等とも連携し、本への興味・関心を広げていけるよう取組や環境整備を進めてまいります。ご家庭におかれましても、読書習慣形成に向けた働きかけをお願いします。
- 「規則正しい生活習慣の形成」は、学校生活の基盤であり、継続した働きかけが大切です。今後も「早寝・早起き・朝ごはん」を大切にしながら 8 時～8 時20分に登校できるようご協力お願いいたします。

Forms でのアンケート収集へのご協力、ありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

令和6年度全国学力・学習状況調査結果

4月に、6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について結果がまとまりました。本調査は、国語と算数の2教科のテストと同時に、主体的・対話的で深い学びや個別最適な学び、挑戦心・自己有用感に関する調査も実施されました。調査の結果から、本校の子ども達の状況をお伝えします。

○国語科の結果より(概要)

言葉の特徴や使い方に関する知識・技能面が特に優れていました。これは児童同士の対話量を増やすことに重点を置き、「一日一対話」を行ったことが結果につながったと考えます。

目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くことに少し弱さが見られました。

○算数科の結果より(概要)

図形の性質を活用して問題を解く思考・判断・表現面が特に優れていました。これは GIGA 端末を活用し、一人一人の考えを比較しながら、多様な見方・考え方につながる授業に取り組んだことが結果につながったと考えます。速さの意味について理解しているかを解く問題に少し弱さが見られました。

○児童質問紙より

- ・「自分にはよいところがありますか」という質問に対し、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と答えた本校の児童は約97%で、京都府や全国の値と比べると約 13%上回っていました。自己存在感を高める取組を大切にしてきた学級・学年経営で、自己有用感が育ってきているのだと思ひます。
- ・「人の役に立つ人間になりたいと思ひますか」という質問に対し、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と答えた本校の児童は 100%でこちらも全国の値を大きく上回っていました。本校が継続して取り組んでいるたてわり活動で、6年生がリーダーとして、グループをまとめることで、人の役に立つよさを児童が実感しているからだと思ひます。
- ・「5年生までに受けた授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という質問に対し、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と答えた本校の児童は、約 92%で、京都府や全国の値と比べると約 12%上回っていました。本校が校内研究として取り組んでいる「探究力の育成」が確実に児童の力になっているのだと思ひます。

○全体を通した本校の成果と課題

これまで4年間、本校では、「確かな学力を身に付け、育てたい資質・能力の育成を目指したカリキュラムデザイン～子どもに『3Motto』を育てるためにゴールを明確にした授業改善～」という研究主題のもと、各教科で学習し身に付けた力を生活科や総合的な学習で発揮できるよう取組を進めてきました。身近にある課題に対して、児童が「どうしてだろう」「なぜだろう」という問いを見だし、児童がその課題を解決するために、「何が必要なのか」「解決するために、自分に何ができるのだろう」など自ら課題に対して主体的に解決していく姿を目指してきました。この取組の成果として、身近にある課題に対して、児童一人一人が、自分事として真剣に考え、探究する力が育成されています。その成果が、今回の全国学力・学習状況調査結果にも表れています。本校の課題としては、「話す力・聞く力」の弱さがあります。今後は、自分の思いや考えを聞き手に伝わるように筋道立てて話す力や話し手の伝えたいこと、の中心を的確にとらえながら聞く力の育成を目指した授業改善に取り組んでいきます。また、基礎基本の読解力・計算力などの課題に対しては、自らが学習に向かえるような毎時間の授業や毎日の家庭学習を大切に積み上げていく必要があります。確かな学力が身につくよう今後も学校と家庭が協力し合って、子どもたちの学習を支えていきたいと考えています。